

【東海オープン準優勝コメント】

今大会コンディションは非常にオイルが多いと聞いていましたが、投げてみると思った以上に奥が切れていてオイルをあまり感じませんでした。どのボールを投げても非常に奥が動いてしまう為、投げたてピン飛びが一番良かった“アキュスウィング”（ダイヤモンドコンパウンド 10000 番 POLISH 加工）を選択し、1 2 G で 2 4 2 アベという好スコアを打つ事が出来ました。準々決勝はレーンコンディションが非常に遅く感じた為、よりスキッドが得る事が出来、バックエンドでもしっかり戻る“キラーマシン”に変えて投球しました。

最終日の準決勝、ラウンドロビン、TV 決勝は初日と同じコンディションに感じた為、“アキュスウィング”で戦いました。3 位で TV 決勝に残り、3 位決定戦では頭からストライクを 9 連発する事が出来、あわやパーフェクトゲームが頭をよぎりましたが、1 0 フレで BIG 4 を出してしまい、2 6 4 で FINISH しました。優勝決定戦は悔しくも負けてしまいましたが、大会を通じて“アキュスウィング”に助けられました。強い POLISH 加工でも箱出しでも、しっかりオイルをキャッチし、どの状態でも転がり良く奥でのフッキングがしっかり出てくる安心感があります。

最後になりましたが、トナメントを開催して頂きましたスポンサー各位、会場で応援してくださいました多くのボウリングファンの皆様に深く感謝を致します。ありがとうございました。



【準優勝ボール“ACCUSWING”レイアウト】

【準優勝への軌跡】

予選 1 2 G / 2 9 1 1 ピン (2 4 2 AVG)
準々決勝 6 G / 1 3 0 7 ピン (2 1 7 AVG)
準決勝 6 G / 1 2 8 1 ピン (2 1 3 AVG)
RR 8 G / 1 7 9 1 ピン (2 2 3 AVG)
通算 3 2 G / 7 2 9 0 ピン (2 2 3 AVG)

● 3 位決定戦 ●

加藤プロ ○ 2 6 4 - 2 2 5 × 梶プロ

● 優勝決定戦 ●

加藤プロ × 1 9 6 - 2 1 1 ○ 児島プロ

【ボールレイアウト】

PIN-PAP の距離 5 1/4

PAP-MB の距離 5 1/4

バランスホールは、PAP から 2 1/4 の場所

J P B A / NO.1066 加藤 祐哉
(さがみ野ボウル専属)